

報 告 書

土木警察常任委員会は、令和6年11月5日（火）に、県内視察調査を実施しましたので、その概要を別紙のとおり報告します。

令和7年1月29日

福井県議会議長
宮 本 俊 様

土木警察常任委員会
委員長 田中 三津彦

土木警察常任委員会 視察調査 概要

1 視察年月日 令和6年11月5日（火）

日程は別紙のとおり

2 出席者 別紙のとおり

3 視察内容

（1）中部縦貫自動車道大野油坂道路

新子馬巣谷橋および大谷トンネル工事現場 [10:20 ～ 11:30]

あいさつの後、課題の見つかった現場を視察しながら説明および質疑応答を行った。

（質疑概要は別紙のとおり）

○あいさつ

国土交通省近畿地方整備局

福井河川国道事務所長 野村 文彦

○現地視察

説明：福井河川国道事務所長 野村 文彦

（2）福井空港[14:30 ～ 16:20]

あいさつの後、資料に基づき概要説明を受け、質疑応答を行った。

（質疑概要は別紙のとおり）

○あいさつ

土木部長 田中 克直 様

警察本部警備部長 酢谷 精一 様

○「福井空港の利用状況および再整備計画」

説明：福井空港事務所長 岩本 喜洋

「警察航空隊の活動状況」

説明：警察本部警備課長 山内 一之

「福井空港再整備計画の検討状況について」

説明：土木部空港利活用室長 小嶋 直人

○現地視察

土木警察常任委員会 県内視察調査日程表

実施日 令和6年11月5日（火）

時 間	行 程
8 : 4 0	議事堂 発（バス）
1 0 : 0 0 1 1 : 3 0	中部縦貫自動車道 大野油坂道路 （説明会場）①新子馬巣谷橋、②大谷トンネル （所在地）①大野市箱ヶ瀬、②大野市大谷 ○あいさつ ○概要説明 「大野油坂道路事業の進捗状況等について」 ○質疑応答
1 2 : 3 0 1 3 : 2 0	昼食（大野市内）
1 4 : 3 0 1 6 : 0 0	福井空港 （説明会場）福井空港事務所 （所在地）坂井市春江町江留中 50-1-2 （電 話）0776-51-4066 ○あいさつ ○概要説明 ・福井空港の利用状況及び再整備計画について ・警察航空隊の活動状況について ○質疑応答 ○福井空港の現地視察
1 6 : 3 0	議事堂 着 （解散）

土木警察常任委員会 県内視察調査出席者名簿

【派遣委員】	(氏 名)	(期別)
委 員 長	田中 三津彦	2 期
副 委 員 長	渡辺 竜彦	1 期
委 員	田中 宏典	5 期
//	清水 智信	3 期
//	三田村 輝士	1 期
//	堀居 哲郎	1 期
//	中村 綾菜	1 期
//	福野 大輔	1 期

(委員 計 8 名)

【地係議員】

中部縦貫自動車道大野油坂道路関係
大野市選挙区

兼井 大 2 期

福井空港関係
坂井市選挙区

大和 久米登 1 期

森 嘉治 1 期

(議員 計 3 名)

【議会局】

議事調査課

主 任 福岡 美和

//

企画主査 高橋 康代

1 中部縦貫自動車道大野油坂道路

新子馬巢谷橋および大谷トンネル

I 課題現場の説明概要（現地視察含む）

○課題の概要

〔新子馬巢谷橋〕

（橋部ケーソンの沈下）

- ・ 工事現場に複数の課題が発生しており、そのうち新子馬巢谷橋は、P 1 橋脚部のケーソンが沈下せず、同じタイミングでのり面の崩落や亀裂が生じている。さらにA 1 橋台は出来上がっているのだが、6センチの沈下が起きている。この沈下はもともと想定をしていなかった。
- ・ 橋脚の躯体を施工するために、この中に人が入って土を掘り躯体を造った。ケーソンの自重で残り1.6メートルぐらい沈下させようとしたが沈下が止まってしまっている。
- ・ 何千トンという重さであるが、浮いている状態。通常、こういったことはほとんど起きたことがなく、有識者も含めて分析をしている状況である。
- ・ 沈下をしない場合は、沈下をさせるためにケーソンの周りに穴を開けて、隙間を作って落とすことになる。7月、8月に少しでも沈下を促進させようとケーソンの間にたくさん穴を開けて落とそうとしたけれども、それでも沈下をしない状況である。
- ・ 十何メートルも深く掘るとなると気圧の高い場所になるため、誰でも作業ができるわけではなく、非常に難しい作業である。
- ・ 原因として、下にある土が広範囲で動いている可能性があるのではないかと、横から押さえつけられて浮いて沈下が進まないのか、そういった仮定に基づいて詳細な調査をするために地質調査を行っていく。

（のり面崩落）

- ・ 蛇紋岩という珍しい岩質で、空気や水に触れると非常に柔らかくなる性質を持ち、そういったものがこの辺一帯に含まれている。これまでも蛇紋岩があるところに構造物を造ってきた実績はあるが、水や空気のバランスが悪いため土の中が乱れた状態になっているのではないかと考えられる。

〔大谷トンネル〕

- ・大野油坂道路区間は他の区間に比べてトンネルが多く、全部で6か所ある。山間をくぐるような形式になっているため、工事をする車両の入り口が限定的になり構造物の建設が非常に難しい。
- ・トンネル6本のうち4本が完了し貫通している。大谷トンネルは全長2.8キロメートルの一番長いトンネルであるが、あと206メートルくらい掘れば貫通する。その後はコンクリートで覆工、通信とか照明の設備工事に移行していく。
- ・トンネル内にも課題が発生している。蛇紋岩がたくさんあるわけではないのだが、ここでも想定をしていない事態が起きている。掘っている最中に上から水が滴り落ちて、水たまりができるぐらいたくさん出てきている。パイプラインで吸い上げて出している状況。このことにより施工のスピードも落ちて時間がかかっている。
- ・トンネルがしっかりと固定されるようロックボルトという機材を打っていくのだが、山の状態が悪ければ悪いほど、鉄筋自体の本数が増えたり、強くしていかなければならない。また、インバートというコンクリートを下に打つ。土の状態が悪いほど円状の外側に向けた金具の構造が複雑になっていく。掘ってみて初めて土の性質が分かる場合もあるため、状況に応じて対応していかなければならない。

Ⅱ 質疑応答

○委員 ケーソンが沈下しない原因がわからないということで、先が見通せないとのことだが、今後のスケジュールについて伺う。

○福井河川国道事務所長 追加でボーリング調査をしているところであり、調査結果を踏まえて追加対策をする。対策が決まってもそのための設計であるとか材料を発注することになるため、いつ頃になるかははっきり言えない。専門家によると、地質の層が入り乱れているとのことである。

○委員 トンネルが貫通する時期はいつ頃になるか。

○福井河川国道事務所長 あと200メートルぐらい掘ってみないとわからないのであるが、順調にいけば年度内にトンネルは貫通する予定である。

2 福井空港

福井空港の利用状況および再整備計画について

I 説明概要

○福井空港の利用状況および再整備計画について

- ・昭和41年に開港。最初10年間は羽田までの定期便があった。当時は福井－羽田間を1時間20分で結んでいた。その後、定期便が休航し、滑走路を伸ばす拡張計画の構想に入ったが断念し、平成15年に拡張整備計画の中止を決定。定期便がなくなった。
- ・1,200mの滑走路とエプロンと誘導路の三つの要素で構成されており、セスナ系の航空機に入れるアブガスとヘリコプターやジェット機に入れるジェット燃料を駐機スポットで補給することができる。
- ・防災ヘリ、ドクターヘリ、県警ヘリ、民間事業者2つの計5つの格納庫がある。
- ・空の管制業務はすべて伊丹空港、大阪航空局で管制をしていて、空の部分の情報を全て提供いただくこととなっている。福井空港事務所は地上に着いてからの管理を行っている。9時から17時（日没）までが運用時間となっている。
- ・グライダーの聖地と呼ばれており、国内で唯一、グライダーをほかの航空機で引っ張って離陸させる訓練ができる。学生が合宿できる建物もあり、週末、特に関西、東海方面の学生がグライダーの訓練に来られる。
- ・観光ビジネスとして空港を利用するPR動画をユーチューブで発信しており、事業や観光で使用する場合に補助金を出すなどの各種サービスを実施している。
- ・隔年で大規模フェスを開催。フェスがない年は小型機の体験搭乗やフライトシミュレータ体験などミニ企画を開催。カップルで空を遊覧する「ハピネスフライト」なども行っている。

○警察航空隊の活動状況について

〔活動内容〕

- ・警察航空隊は平成3年に発足して33年目を迎える。ヘリコプターは耐用年数が20年であるため現在2代目である。
- ・近年、大規模災害が頻発していることを踏まえ、災害対応を第一とする。山岳遭難者等の救助も行っているが、日常的にはパトロール、捜索活動の支援を主な任務とする。荒島岳で遭難があった場合、現地まで15分ぐらいで到着する。

- ・近年の出動実績は、令和5年7月嶺北北部の大雨による被害状況の確認、令和6年2月山岳遭難者の救助などがある。その他、オリンピック開催時の要人警護、令和5年5月のG7富山・石川教育大臣会合、令和6年1月能登半島地震にも特別派遣した。
- ・能登半島地震の時には、休暇中の隊員が直ちに参集し、発災後1時間で県警ヘリが離陸。あわら市の被災状況を確認しつつ能登半島に向かった。「くずりゅう」が撮影したヘリテレ映像を首相官邸政府対策本部や警察庁に送信した。
- ・能登半島地震時には、福井空港は警視庁、県警ヘリの拠点や経由地になり、離発着、給油支援、宿泊地への送迎などの対応を行った。
（「くずりゅう」が能登半島地震の被災状況を撮影した映像を紹介）

〔訓練〕

- ・一般飛行訓練、実際に現場の救助に当たる機動隊員や海上保安庁との合同訓練を実践的に実施。

〔活動方針〕

- ・近年、重要性が増した任務である、大規模災害時などに迅速に対応すること。夜間休日を含め隊員の即応体制を維持する。
- ・任務を完遂するため、実践的な訓練を継続し対処能力を向上させる。さまざまな状況での正確な判断、適切に操縦する技能を維持すること。特に、ヘリが10年を超えており、不具合が増えてきているため、漏れのない整備で安全対策を徹底し、万全を期していく。
- ・航空隊の人員は運航に支障のない人数で、より安定的な体制を強固なものとし、整備士1名を増員、警察官である操縦士についても養成にかかる予算獲得を目指す。
- ・福井空港の再整備計画に防災機能強化方針も含まれており、能登半島地震では福井空港が改めて災害時の活動拠点として示された。防災拠点としての機能強化に向け参画していく。

○福井空港再整備計画の検討状況について

- ・観光ビジネス、防災拠点としての機能強化を含む再整備の2つをテーマに福井空港の将来像を決める。
- ・福井空港ビル再整備構想検討委員会において、空港の利用促進、機能強化についての議論を基に、福井空港ビル再整備構想案をまとめ、ワークショップでは、空港に必要な機能について検討を重ねてきた。空港ビル敷地内での配置、ビルの中にどのような機能を設けるかをテーマとしている。
- ・空港は県の施設であるから、災害時にはいち早く復旧して使えるようになること、パブリックスペースについても広く設けてはどうかなどの意

見があり、設計の参考にしていく。

- ・他県の空港事例、委員会から出ているその他の意見は別添資料のとおり。

Ⅱ 質疑応答

○委員 空港は午後5時で閉まるのだが、それ以降でも離発着することもあると思う。夜間に出動する場合、責任は誰が負うのか。基本的にはヘリコプターは有視界飛行で夜間はないと思うが。

○警備課長 実際出動するときもあり得るので、夜間飛行用の照明設備を仮設置する。利用申請し、許可を受けた上で飛行できることとなる。福井空港事務所に申請し、飛行計画を基に機長を交えて飛行可能か判断してから出動する。

○所長 緊急の場合は、時間外利用届出を提出することとなる。

○委員 能登半島地震の実績について、救助の実績があれば伺う。

○警備課長 情報収集が主であり救助の実績はない。能登半島地震の時には、福井県の警察航空隊は6日間出動し、延べ15回飛んでいる。最大飛行時間が3時間程度しかないため、2時間を目安に、状況によっては石川県内で給油するなどして活動を行った。

○委員 観光と災害時では、どのように使い分けをするのか。

○空港利活用室長 例えば、エプロンの拡張をすれば、観光でも防災にでも使いやすく、結果的に両方に効果が得られるようにするなど、敷地を考えたときに、それぞれの視点でチェックをする。ヘリや小型機は風の影響を受けやすいため、より安全に使いやすくなるようにする必要がある。

○委員 観光やビジネスに力を入れたほうがいいと思う。決算審査の中で令和5年度のビジネス利用補助の目標件数が3件であったのだが、難しいのであるか。どのような考えか。

○空港利活用室長 営業にも力を入れ、補助の対象を観光やヘリコプター利用にも広げたところ、昨年度はビジネス利用1件だったところが、今年はビジネス1件、観光6件の利用となった。観光目的での利用が多く、観光なら可能性があると感じている。

○委員 国内の観光、インバウンド向けにも可能性があるかと思う。

○空港利活用室長 海外の旅行会社に聞いたところ、直接福井空港に着陸するとなると、滑走路が短いと言われる。今、福井空港に来られるビジネスジェット機は4～5人乗りで、海外から来られるお客様が乗るジェット機は8～10人乗りを使っていて、福井空港に直接降りることができない。また、C I Qといって入国審査、検疫、税関の手続が必要となるため、直接入ってもらうことが難しい。石川県に聞いたところ、施設や滑走路が備わったところで入国してもらい、プライベートジェット機で直接来てもらうといいのではないかとアドバイスをいただいた。

○委員 スカイマークの元社長が新しくマイクロジェット株式会社を立ち上げた。4人乗りの小型ジェット機であるが、茨城空港とか鳥取空港などでの運航が始まっているが。

○空港利活用室長 マイクロジェット株式会社には実際に来ていただいたし、ツアー会社にも何回か来てもらっている。福井空港も使ってほしいと交渉をしている。

○委員 天草空港にはプロペラ機の定期便があるということであるが、小型機でもいいので、今後定期便など就航する可能性はあるか。

○空港利活用室長 運航会社はいくつかある。機材を融通できるかが大事であり、定期便だと難しいが、チャーター便としてならいけるかどうかである。航空機材の対応やスタッフがたくさん必要となる。いろいろな対応ができるようビルド設計が必要である。

○委員 観光も大事であるし、地元の人にも愛される場所にすべきだと思う。子どもたちへの教育的な活用もあるといい。

○所長 ヘリコプターの見学会やイベントでの航空機体験などを行っている。ヘリコプターがない時もあるので、フライトシミュレータの体験などでもできる。見学には保育園・保育所20園の総勢670名、小学校2校からの参加があった。

○委員 子どもたちは、航空機の離発着するところが見たいのだと思う。いつ頃離発着するのか情報を提供してもらえるといい。

○空港利活用室長 フライト情報の提供については検討していく。なお、運航を時間単位で示すのは難しく、運航する人の判断によるものもある。風や雲の高さなどの影響があり、予定どおりにならないことがある。ただ、出せるときにはわかる範囲で、午前・午後くらいに分けて情報を出している。同じ情報をエンゼルランドでも知ることができる。

○委員 熊本空港を視察した時に、防災ヘリ、警察ヘリが隣り同士格納庫に並んでいた。それと、会議室が普段は壁で仕切られているのだが、一緒に動くようなときになったら、仕切りが外せる構造となっていた。

お互いが近くにいることのメリットとして、日頃からコミュニケーションが取れて、いざというときに連携が取れるということだった。どのように配置を検討されているのか。

○空港利活用室長 ワークショップの中でも意見が出ていた。ビルの建て直しに併せて、ブリーフィングができる場所についても検討したい。

○委員 商業を目的として定期的にご利用するとのことであるが、人を運搬する観点で定期便にしないのか。あくまでスポット的に観光ビジネスで利用するというのか。

○空港利活用室長 北陸新幹線も開業し、小松空港が近くにある。週1、2回の定期便では難しいと考える。

○委員 福井を目的地として飛行機を利用して来るメリットが、将来的にどれだけ増えるのかを考えないといけない。福井市周辺に何が足りないのか、また、最低限の資材をきちんと確保できるスペースも必要である。

防災拠点として県の施設を使うのなら、今年の能登半島地震では避難所の水道が問題となった。施設の上水道の耐震化も併せて考えていくといいのではないか。ここに来るまでの上水道に関してもそうである。検討いただきたい。

○土木部長 上水道も下水道も能登半島地震を機に、急所となる施設等を重点化し、耐震化を図るよう国が方向性を出しており、耐震化計画を年度内に出すこととなっている。

我々は国に対して補助金等の拡充等を求めていくが、そうした国の方針に基づき優先順位をつけ、耐震性の高い上下水道施設を造ることを求めていく。

ここが防災拠点になっていくとなれば、重要な施設となるため、優先して耐

震化を図る形で進めていただきたいと考えている。

○委員　　8人乗りのジェット機が着陸できないとのことだが、中標津空港は2,000メートルの滑走路で大型ジェット機が着陸できる。1,200メートルではまったく余裕がないということか。

○空港利活用室長　滑走路を延ばそうとすると用地が必要になる。南側は住宅があるし、北側だと、ぎりぎり1,500メートルであるが、道路の下に重なるため滑走路を延ばすことができない。

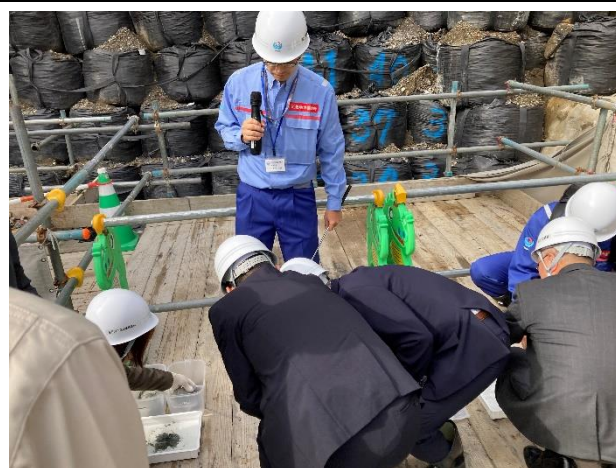
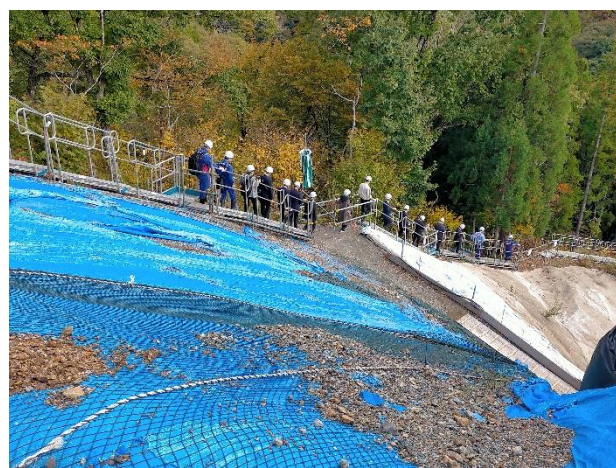
○委員長　　たしか道路の勾配についても国の法律で制限されていたかと思う。そのため1,200メートルから先には延ばせない現状だったかと思う。

Ⅲ 現地視察

- ・ 福井空港施設内を移動し、再整備箇所を確認
- (※) 現場視察をしながら行った質疑応答については省略する。

土木警察常任委員会 県内視察（中部縦貫自動車道大野油坂道路）R061105

しんしばすたにばし
(新子馬巢谷橋)





(大谷トンネル)



土木警察常任委員会 県内視察（福井空港） R061105

